

音楽テープやレコードをデジタル化

昔、録音したカセットテープや古いレコード。再生環境がなくなってしまうと、思い出も消えてしまうことに……。そこで、登場するのがパソコンだ。パソコンがあれば、思い出をデジタル化できる。

●古いカセットテープやレコードをデジタル保存



古いレコードやカセットテープは、経年劣化などで再生ができなくなる可能性が高い。今のうちにデジタル化しておけば、半永久的に保存が可能だ。オリジナル CD を作成したり、スマホで視聴するなど、活用の幅も広がる

音声をデジタル化するのは、動画の場合よりも簡単だ。音質にそれほどこだわらないなら、パソコンのマイク端子とラジカセなどのヘッドホン端子を AV ケーブルでつなぎ、「SoundEngine Free」(作者:コードリウム、<http://soundengine.jp/>、非営利利用のみ可)のようなフリーの音声編集ソフトを使えばよい。手軽にデジタル化を試せる。

もし音質にこだわるなら、USB 接続のオーディオユニットを利用しよう。パソコン内の電子回路のノイズの影響を受けることがなく、音質が良い。

●音楽をデジタル化する方法は 2 通り



パソコンのマイク端子に直結する方法。AV ケーブルとフリーの音楽取り込みソフトを使えば、安上がりにデジタル化できる。ただし、パソコンによっては、電子回路のノイズを拾い音質が悪くなることもある



音声取り込みの専用機器を使う方式。取り込み用のソフトも付属する。パソコンの電子回路のノイズの影響を受けないのがメリット。機器は安価なものから本格的なものまで、幅広い

デジタル化の操作は、どちらの場合も基本は同じだ。機器を接続した後、オーディオ機器で再生し、パソコン側の取り込みソフトで録音を実行する。

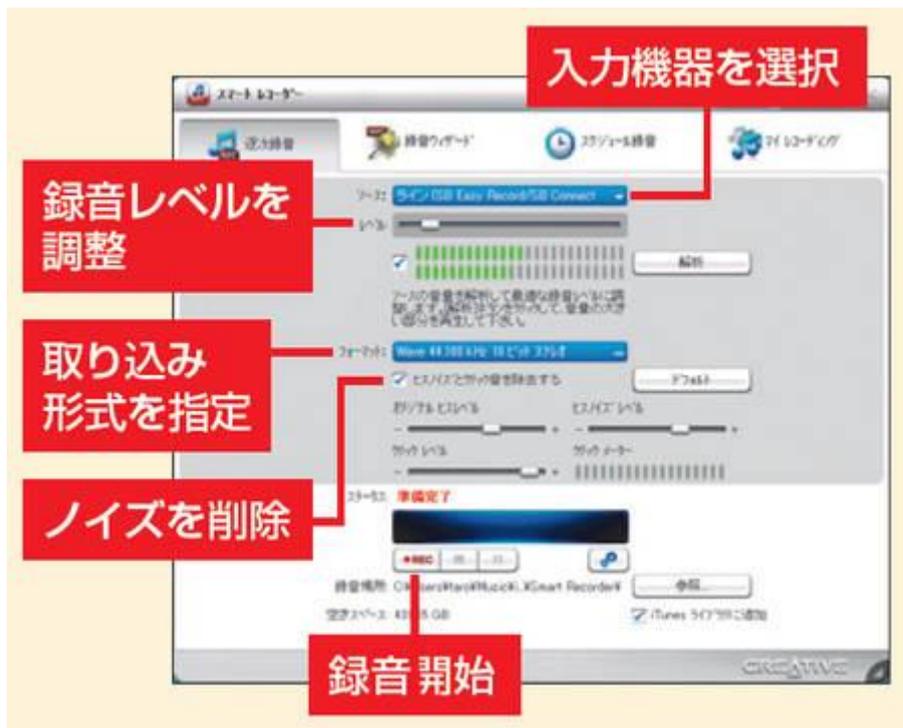
音声編集ソフトを使えば、不要な部分のカット、曲ごとの分割、ファイル形式の変換なども可能だ。市販の USB オーディオには、こういった編集ソフトが付属することが多い。

音声は通常、無圧縮のニア PCM(WAVE)形式で保存することが多い。データ容量が大きいいため、スマートフォンなど本体の容量が限られる場合は、圧縮して容量を減らす MP3 形式などに変換してから利用するとよい。

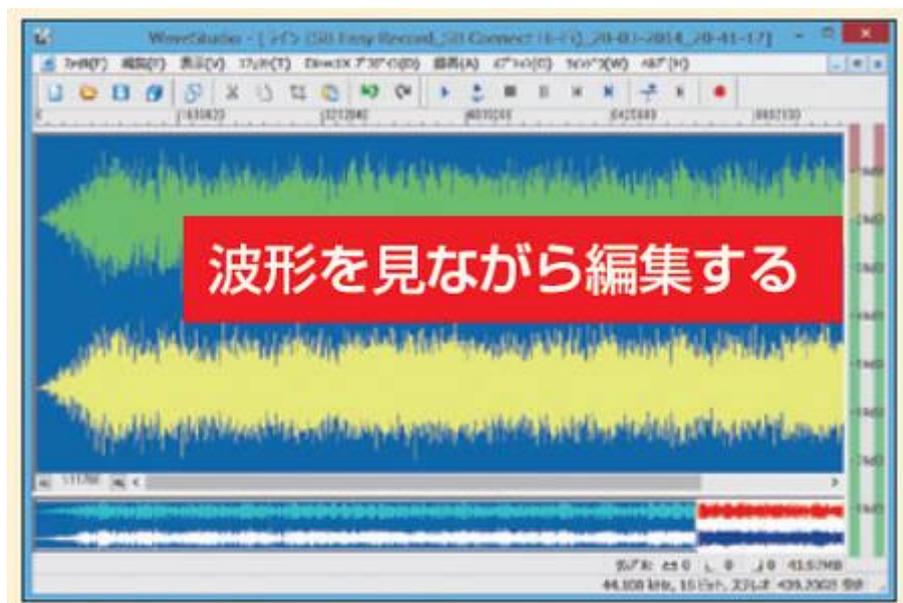
●USB オーディオでデジタル化



今回は低価格の USB オーディオユニット「Sound Blaster Easy Record」(クリエイティブメディア、実勢価格:約 2400 円)を使ってみる。パソコンとは USB 端子で、オーディオ機器とはライン端子でつなぐ。本体のヘッドホン端子で音声を確認できる



付属ソフト「スマートレコーダー」でデジタル化が可能。音量レベルのメーターが赤にならないようにレベルを調整し、音声形式などを指定したら、「録音」ボタンを押せばよい



取り込んだ音声データは、付属ソフトの「WaveStudio」を使って、不要部分の削除や、MP3形式などへの変換が可能だ